

I 発見！豪族居館「三ツ寺」遺跡	1
II 館の遺跡	9
III 館跡の発掘・調査経緯・調査遺跡（発掘地）	19
IV 豊富な出土品	35
①金銀加工にかかわる道具	
②マツリノ道具 ア：木製品 イ：布製品（動物の骨）・自然遺物（種子）	
ウ：石製道具 エ：土器	
③様々な建築部材	
コラム：北谷遺跡	
V 館跡の調査と今後の展望	39
付録1「三ツ寺」遺跡の調査を語る（佐藤和志）	
付録2「近畿の首長層と三ツ寺」遺跡（佐藤）	
付録3【特別掲載】「三ツ寺」遺跡再検討の経緯・複製製作から始まった社会史の追求（佐藤）	
付録4【特別掲載】「三ツ寺」遺跡発見・調査の経緯と今後の展望（佐藤和志）	
○出品目録・参考文献・協力者・協力機関	60

I 発見！豪族居館 - 三ツ寺 I 遺跡 -



朝鮮半島のとよく似てる豪

群馬県 三ツ寺遺跡

日本海渡来に根拠

発見された巨大施設

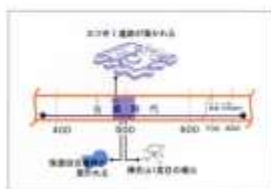
今から30年前、群馬県内はバブル景気の最中であり、大規模な建設工事が多数行われていた。上野原市と東吾妻町の二大幹線はこの時期に建設されており、これらにかかる地味文化財の発掘調査もまだかつてない規模で行われ、連続した発掘調査による発見も相次いでいた。

1981年、上野原市街の建設にともなう発掘調査において、それまで知られていなかった古墳時代の巨大な施設が発見された。

豪族居館「三ツ寺」遺跡である。

当時、以大古墳を中心とした発掘調査によって古墳時代の社会のようすが解明されつつあったものの、その社会を治めた王の拠点となる「居館」の姿はほとんど不明であった。

日本で初めて発見されたこの豪族居館は、これまで想像されてきたものとはおよそかけ離れた規模と



本館跡で発掘調査

構造であり、研究者はもろろんのこと、多くの歴史ファンやマスコミの注目を集めることとなった。



発見された豪族居館「三ツ寺」遺跡（上野原市）

特異な構造物の数々

三ツ寺I遺跡が造られた場所は、山麓を走る道路と小川（富沢川）が流れる部分である。発掘調査では、本館の広がりや一部の中に一直線50m・高さ10mほどの方形の高まりが確認できる。豪族などとして利用されていたこの場所は、地元の人たちに「島根」と呼ばれていた。

その奥の下を発掘調査していくと、この方形の区域には、厚さ10mほどの土が人工的に成されて

いることが判明した。また区域内からは、数多くの柱穴の跡が発見された。一例に並ぶものは横のようにならびで、間隔は約2m程度と推定され、複数の方形に並ぶ柱穴は、築造経緯や用途と推定された。さらに石が敷き詰められた場所も複数発見され、そこからは祭祀用品である石製土器が大量に出土した。

また、方形区域の周囲は、掘削して盛り上げた土（版）が敷き詰められた。版の厚は40cm、高さは3cmにも及ぶ大規模なものである。そして方形区域の外縁部には、巨大な版が敷き詰められており、その版には石が敷き詰められていたと推定されている。



発見された豪族居館「三ツ寺」遺跡（上野原市）